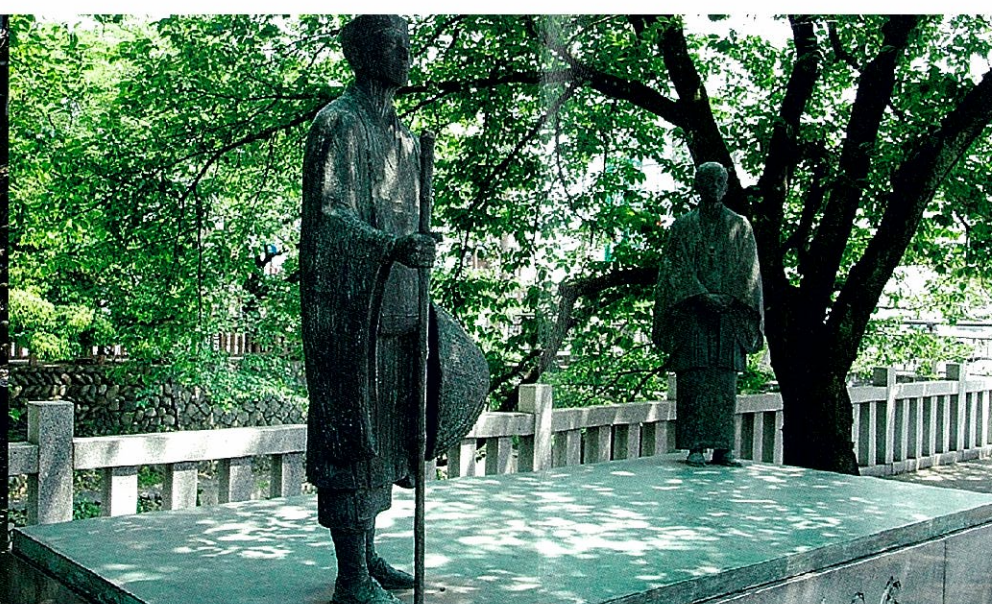




文化の薫り高い大垣の個性を 生かしたまちづくり



本市の中心市街地では、俳聖・松尾芭蕉が「奥の細道」の紀行を終えたむすびの地や美濃路など、多くの歴史的・文化的資源を有するとともに、大垣城の外堀であった水門川や重要な水運の拠点として隆盛を誇った船町川湊跡など、水の恩恵による「水の文化」が育まれてきました。

こうした中、JR大垣駅を中心とする地域では、近年のモータリゼーションの進展、郊外型大規模小売店舗の立地などにより、商業核としての魅力が薄れつつあり、これまでの長い歴史の中で文化や伝統を育んできた「まちの顔」である中心市街地の拠点性が低下しています。

このため、市制90周年を契機として、中心市街地の活性化に向け、文化の薫り高い大垣の個性を生かし、中心市街地の回遊性の誘発と市内外からの来訪者の増加を目指し、歴史と文化が息づく船町・美濃路界隈であるとともに奥の細道むすびの地周辺に、憩いと賑わいの空間を整備してまいります。

最後に、構想策定に当たり、様々なご意見やご提言を賜りました「奥の細道むすびの地周辺整備構想懇談会」の委員の皆様をはじめ、関係各位に心から感謝申し上げます。

平成20年10月

大垣市長 小川 敏

対象区域

本構想の対象区域は、大垣市の歴史と文化が息づく船町・美濃路界隈であるとともに、俳聖・松尾芭蕉が奥の細道の紀行を終えたむすびの地である水門川沿いの土地(図のA及びB:約5,500m²)及びその周辺地域とする。

(参考)	区分	面積
	A	3,879.96m ²
	B	1,563.43m ²
	合計	5,443.39m ²



整備目標

中心市街地の活性化

近年のモータリゼーションの進展、郊外型大規模小売店舗の立地などにより、本市の文化や伝統を育んできた「まちの顔」である中心市街地の拠点性が低下している。シンボリックな拠点の一つとして整備を進め、回遊性のある新たな賑わいを創出し、中心市街地の活性化を図る。

ふるさと・大垣への誇りと愛着の醸成

大垣市では、これまで歴史・文化の保存・顕彰に取り組んできたが、数多く存在する歴史的・文化的資源の価値が市民に十分に理解されていない。大垣市の歴史・文化や先賢を顕彰することで、ふるさと・大垣への誇りと愛着を醸成する。

観光・交流産業の促進

大垣市では、これまで奥の細道むすびの地や大垣城を中心として観光・交流産業の促進に取り組んできたが、観光・交流資源が点在しているため、集客力を弱めている。西美濃地域をはじめとする広域的視点に立って、中核的拠点を整備し、観光・交流を促進する。

整備コンセプト

大垣の歴史と文化が息づく 憩いと賑わいの空間の創出

～郷土の歴史・文化・風土・先賢の学習空間と
観光・交流のゲートウェイとして～

本構想では、奥の細道むすびの地周辺を「歴史と文化の場」及び「観光・交流産業促進の場」として、次の3つの方針で整備を進める。

船町地区全体の整備の核づくり

船町地区は、美濃路や中山道などの街道の陸運と水門川や揖斐川水系の水運の結節点である船町川湊を中心に発展し、江戸時代から交通の要衝として産業・情報の集積化により、大垣宿の西の玄関口として機能してきた。そうしたことを日常の生活文化に生かしながら、一層の交流促進による賑わいを創出するため、美濃路周辺の修景整備など、船町地区全体の再生に向けた拠点として、奥の細道むすびの地周辺を整備する。

中心市街地への市民及び来訪者の回遊性を誘発する拠点づくり

大垣市の中心市街地には、奥の細道むすびの地はもとより、大垣城、美濃路、大手いこ井の泉などの文化・交流資源のほか、大垣市及び西美濃地域の「商業の顔」である中心商店街がある。奥の細道むすびの地周辺は、かつて、美濃路と言えば西の玄関口、水運と言えば南の玄関口でもあり、中心市街地の回遊性を誘発する拠点として、奥の細道むすびの地周辺を整備する。

西美濃全域フィールドミュージアム化のゲートウェイ機能の整備

船町地区は、大垣市の中心市街地だけでなく、大垣市内全域から西美濃地域全体にいたるまでのゲートウェイとしての役割を果たす立地条件が備わっている場所の一つである。西美濃地域をはじめとする広域での歴史・文化、観光・交流産業促進の拠点として、奥の細道むすびの地周辺を整備する。